



道の駅「阿蘇」来館早くも20万人突破



JR阿蘇駅前にできた道の駅「阿蘇」が6月1日の開駅から早くも来館者20万人を達成しました。記念すべき20万人達成となった10月11日はセレモニーが行われ、その瞬間を待ち佐藤市長はじめNPO法人ASO田園空間博物館の西岡理事長、小笠原副理事長など関係者がカウントダウンする中、福岡県古賀市の高野俊一さんファミリーが20万人目となり、記念に花束と阿蘇のコシヒカリ新米100キロが贈られました。

4ヶ月で20万人という数は予想を上回る来館数で、立地条件の良さや阿蘇観光の人気を物語る結果となりました。また、老人会やボランティアの方々による花植えや生け花など地元のご支援も活気ある場として好印象につながりました。これから寒くなり観光のオフシーズンを迎えますが、スタッフ一同来館者に喜ばれるサービスを提供し、情報発信基地として総合案内業務をさらに活かし阿蘇市全体の活性化につなげます。

▲「カドリー・ドミニオンに行く途中に立ち寄りました。ここには美味しそうなものがありました。今回はお弁当を買いました」と高野さん。20万人目という思わぬ出来事に大喜び。

阿蘇の草原のため自分たちができることは？

～大学生が体験して考える環境保全～

環境省九州地方環境事務所と阿蘇グリーンストックとの共催で、環境保全に興味のある大学生を対象に阿蘇の草原に関わる4泊5日の合宿が10月中旬行われました。これは牧野組合の作業をみっちり手伝い、地元の人たちと交流することで、草原維持のため自分たちができることは何か考えようというもので、今回は県内外から20人が参加しました。新宮牧場で輪地焼きや草刈りに従事し汗を流し、4夜続いた談義では真剣に阿蘇に思いを寄せる参加者に受け入れ協力された地元の皆さんも大変心を打たれ、草原が共通の宝物であることを実感した交流となりました。



地域で楽しく！中通フェスティバル盛会

第11回中通フェスティバル2008が10月26日、小学校の体育館で行われました。

フェスティバルは学校をはじめ地域全体の発表の場、レクリエーションの場として毎年楽しまれています。今年も手作りで美味しい食のバザーや、地域の方々の作品展示、パフォーマンスショーや消防署員による寸劇、阿蘇高校吹奏楽部演奏、全児童による人権劇など多彩なアトラクションが催され、地域みんなで楽しい一日を過ごしました。

▲昔の阿蘇を背景にした児童による劇の様子。すばらしい演技と合唱で見事な舞台を披露しました。